



どこでもミュージアム わくわくワークシート

兵庫県立美術館

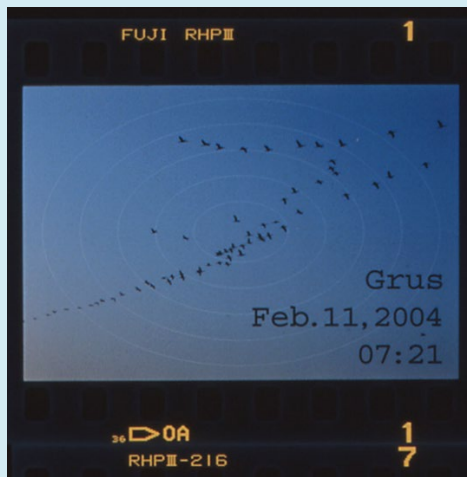
高校生対象

身の回りの風景から
美を見つけよう!



'Grus' Score 010 Feb.11, 2004 07:21

1



注意深く見比べてみよう!

2

拡大
(左上の部分)

この点々は何?

この数字の意味は?



'Grus' Score 010 or Lapis Lazuli

Q

作品 ① と ② はとても深い関係があります。
このふたつの作品をみて、なにがどうなっているのか、解き明かしてみてください。

1

作者：野村 仁

タイトル：'Grus' Score 010 Feb.11, 2004 07:21

制作年：2004（平成16）年

材質・技法：タイプCプリント

2

作者：野村 仁

タイトル：'Grus' Score 010 or Lapis Lazuli

制作年：2004（平成16）年

材質・技法：楽譜

①は大空を飛翔する鶴の群れを、時の経過とともに刻々と追いながら収めた36枚の連続写真です。撮影日時はタイトルにある通り、2004年2月11日7時21分です。“Grus”は鶴座、“Score”は楽譜のことです。作者の野村仁さんは、この写真をもとに、それと対になる②の楽譜を作りました。“Lapis Lazuli”（ラピスラズリ）というのは、美しい青色の宝石の名前です。

野村さんは、中心から波紋のように広がる5つの楕円形をあらかじめフィルムに写し、その上に鶴の群れの写真を重ねました。5つの楕円形を譜面に展開すると、鶴の位置が音符に置き換えられ、楽譜ができます。楽譜は、実際に演奏されCDに収められています。楽譜のタイトルは、連続写真に映された空の色と同じ色の鉱物の名前が付けられており、写真に含まれる要素が全て曲の要素となっています。

野村 仁（のむらひとし）

野村 仁さんは1945年に兵庫県に生まれました。野村さんは外界の観察者・記録者として身近な光景、天体、化石などに目を向け、宇宙や自然の摂理を思わせる作品を発表しています。

野村さんが、視覚から聴覚へ移行させる作品に初めて挑戦したのは、五線の中に、撮影した月の連続写真を音符に見立てた作品《'moon' score》シリーズ（1975年～）でした。野村さんは、その作品を見たお客さんが、メロディを口ずさんでいるのを見て、この楽譜が不自然ではない音楽になっていることに気付き、自分でも驚いたといいます。視覚の情報を音に置き換えても、何らかの調和を保っているなんて不思議ですね。

みなさんも自分の身の回りのものを別のものに置き換え（＝見立て*）て、意味を変えてみましょう。

*見立て：あるものを別のものとみなして表現することです。

- 例：
- 落語の「扇子」が「お箸」に見える。
 - 山頂から見た下界の「雲の広がり」が「海」に見える。
 - 公園の「2本の木」が「寄り添い合う人」に見える。 などなど

面白い見立てが出来た人は、それを写真に撮ってSNSにアップしてみてくださいね。

#

兵庫県美わくわく

美術館



兵庫県立美術館
HYOGO PREFECTURAL MUSEUM OF ART

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1丁目1番1号

TEL:078-262-0901

f artm.pref.hyogo

https://www.artm.pref.hyogo.jp/

@ hyogo_pref_museum_of_art

